

京都サマープログラム2017

チューラーロンコーン大学文学部
パノンポーン・ジャイウア
July 31 – August 10, 2017

日本語を上達させる、日本のことを色々学ぶという目的でこのプログラムに参加した。日本語の授業が始まる前にクラス分けテストがあり、日本語Ⅲの授業を受けることになった。一回目の授業の後に、授業のレベルが自分のレベルに適しているかどうかについて面談があった。私は、日本語Ⅲの授業は結構難しいと感じていた。しかし、難しくても日本語を上達させる機会なのだから、日本語の授業を頑張って受けようと決意し、この授業を受け続けた。授業内容でわからないこともあったが、京大生のサポーターさんがいたので安心することができ、また、予習と復習をすることで自信が生まれ、頑張って学習することができた。授業内容としては、京都に関するエッセイや小説などを読み、京都について理解を深められた。また、授業の中で各留学生の国について情報を交換し、他の国についても理解を深められた。このように、日本語の勉強だけでなく、日本に関する知識も世界に関する知識も広げることができたのである。さらに、日本の書道も体験し、日本の小学校と高校の生活についての講義や、俳句のような日本の言語芸術作品についての講義、日本語におけるウチとソトの講義、日本の農業についての講義など、さまざまな学部の講義を聴講し、日本について多面的に学習した。同時に、自分の国と比較することもでき、自分の国の問題を顧みることができた。日本を見習うべきだと感じる点が多かった。

京都大学構内を巡り、いくつかの施設を見学する機会もあった。大学の図書館にも入ってみて、本がきちんと整頓されており、自分の大学にはないたくさんの学習スペースを見てびっくりした。一番のお気に入りには学食だった。店長も優しく、レシートにカロリーが書いてあることが印象に残っている。大学紹介の時も、自由な学風の大学であるということをはじめ、京都大学についてさまざまなことを知った。理想的な大学であることが分かり、留学することになったら京都大学を希望したいと思った。

学外では、京都の宇治と伏見稲荷へ見学に行った。京大生に案内してもらい、京都の名所を訪れ、新たな知見が得られた。また、和菓子作りも体験し、とても楽しかった。同時に、他の国の学生と一緒にだったため新しい友達もできた。共同発表の際にも、新たな交友関係ができ、協働での発表準備も良い思い出になった。

要するに、このプログラムに参加する価値を実感できた。今回のプログラムに参加して、知識が増し、色々な事を体験することができた。さらに、日本語の勉強を続ける意欲も増し、もっと日本語学習を頑張りたいと思うようになったのである。